

# 中堅ガスもRPA活用

## 北陸、静岡ガスが本格導入へ

果・検証についてはこれからとしている。広島ガス、武州ガスは導入に向けた検討を行っている。

日本RPA協会とライブームコンサルティング、RPAテクノロジーズの3者が7月末に発表したRPA利用実態調査によると、2018年1～6月のRPAの導入件数は前年同期に比べ、1.5倍に増え、導入スピードは加速している。

導入企業を規模別にみると、従業員数1000人以上の大企業が45%を占めた一方、300～1000人未満の企業が19%、100～300人未満の企業が25%となるなど、中堅・中小規模の事業者の導入も活発化している状況がうかがえる。

定型的な業務を自動化するツール「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」の本格導入に向けた動きが中堅ガス事業者にも広がってきた。働き方改革が求められる中、国内では大企業だけでなく、中堅

・中小規模の事業者もRPAの導入に取り組んでいるとの調査もあり、今後の動向が注目される。

◇ 北陸ガスは経理および営業部門にNTTデータのRPAツール「Win

Actor」を導入し、8月上旬に試行導入を開始した。

経理部門では月次資料の作成業務の一部をロボットで自動化。担当者が行っていた月90分間の業務を削減した。営業部門では原料費調整のお知らせに載せる情報の作成に適用し、月180分間の業務を自動化した。

導入の効果が確認できたことから、10月からはRPAの本格導入に向けた対象業務の選定を始めた。各部署から自動化の

候補となる業務を挙げてもらったのち、効率化や実現難易度の観点から優先順位を付けて順次、ロボット化していく方針。

11月から本格導入を開始予定。同社はRPAの活用により、業務効率化に伴う労働時間の削減、人為的ミスの削減につなげたいとしている。

静岡ガスは今年の春から経理やビルングセンターなど、一部の部署にテスト導入し、問題点等の洗い出しを行ってきた。すでに各部署から対象

候補となる業務の抽出を行っているっており、その中から時間削減効果の大きい30業務程度に導入する予定。

年内に推進方法やツールの選定を進め、19年の初めから、RPAを主とする事業推進部と各部署が連携して活用を始めることを検討している。

中堅都市ガス事業者ではこのほか、北海道ガス、京葉ガスがテスト導入を実施中。中部ガスも社内の一部業務のRPA化を進めており、本格的な効